

おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

令和6(2024)年
11月号
通巻651号
毎月23日発行
(題字 矢追日聖)

★発行日 令和6年11月23日
★発行所 大倭出版局
〒631-0042 奈良市大倭町1の12
☎(0742)45-1192
★印刷 大倭印刷
★定価 1部 300円
年間購読料3,500円(送料共)
★郵便振替 01050-6-67002
大倭出版局
URL <http://www.ohyamato.jp>



白山白川郷ホワイトロード「とがの木台」から白山を望む

中村千久佐さん撮影(文・3頁)

私とおおやまと 30年の時を超えて(当時と現在)〈第4回〉

私が最初におおやまとに来た日、法主様はチラッと私を御覧になって「あんたは消極的やな」と仰いました。幼い頃から私は非常に依頼心の強い臆病者でした。いつも誰かの手助けを必要とし、そのうえ朝から晩までベイベーと泣いていました。

中学生の時、国語の先生が「どうしても自分の思いが達せられないと分かった時はどうするか」というような出題をしたことがあります。その時私は「死ぬ」と答えたほど、私の強い人間でもありませんでした。この頃から「人は何の為に生きるのだろう」と考え始め、その考えの膚となっていました。考えれば考えるほど分からなくなり、ついには心も体も半病人になって、一切の事に興味を覚

あの世で出来なごころ
奈良県宇陀郡 松本(現 木村) 聡子

連載の第4回目になりますが、今回は2人のかたに登場していただきます。木村(旧姓・松本)聡子さんはこの30年の間に人生の大きな変化を体験され、その思いをつづっていただきました。

平田弘之さんは、令和2年5月29日に新潟県佐渡の地で帰幽されました。その翌年の10月に大倭会の文化行事で佐渡を訪れました。その時の詳しい報告が令和4年12月号の本紙に掲載されています。(編集部)

えなくなりしました。一切に興味を覚えない人間は消極的です。何の為に生きるかを知りたい、人生に興味を持ちたい―それが私の願いでした。日々の生活がたまらなく煩わしく感じながらも、答えはきつと在ると信じて、宗教の本などにも首を突っ込んでみたり、占いに走ってみたり、支離滅裂な事を繰り返しながら、やつと「とおやまと」にたどり着いた私は、どういう訳か最初の瞬間から「とおやまと」に非常な親しみを覚えしました。

ある日、法主様は、靈魂というものは、肉体の無い人間だと思えばいいこと。また、あの世の人間はこの世の肉体を持った人間を通してしか思いが達せられないことを法話の中で話して下さいました。それまで目に見えない世界に対して恐怖を感じていたのですが、この時から恐怖心は無くなり、同じ人間なのだと思えるようになりました。そして、肉体の無い人間というものを考えてみた時に、はじめて長い間の疑問が氷解してゆくのを感じました。私の靈魂は、私の肉体を通して、願いを達成する為に、人間として生まれたのではないかと。とすれば、肉体を持つということは素晴らしいことなのです。肉体の在るこの世で生きることは、あの世で達成出来ないことが出来るという事なのです。このことを知って、私はとても嬉しいのです。このことを教えて下さった法主様に限りなく感謝しています。そして、私をいつも「とおやまと」に來たいという思いにして下さいました皆さん、有り難うございました。とくに、(鈴木) 母さん、日元さん、教母さんにこの機会をお借りして御礼申し上げたいと思います。やつと人生の出発点に立ったような気がするこの頃ですが、長い間の悪しき習慣から抜け出して、いつかの母さんのように「振り返って後悔することは何も無い」と言い切れるような足跡が残せたらいい

な、と思います。

光陰矢の如し (現在)

山口県下関市 木村 聡 子

三十年前、私は奈良の榛原町に住んでいました。現在は山口県下関市で暮らしています。25年前、母が心筋梗塞で倒れて入院し、1年弱の看病を経て亡くなりました。

ちょうどその頃、1人の男性から連絡が入りました。「え、どなた？」状態で名乗られても直ぐには思い出せません。なんと40年も前に働いていた職場の先輩だったので。

対応の仕方が分からないまま、熱心に根負けしてナント結婚することに。当時私は59歳、彼は69歳でした。

早速、鈴木かあさんに報告しました。

「かあさん、下関に行つて結婚することになりました」

「あんた、奈良を離れられるのか。この結婚は、良いとも悪いとも言えんなあ」

サテ、その良いとも悪いとも言えない結婚生活は、今年で23年目経過中です。

私たちが暮らしているのは、長府という毛利家の城下町です。長府の中では最も庶民的な下町風の場所です。スーパーやドラッグストア等が近くて便利な所です。1キロ程先は周防灘に面した工場地帯です。おかげで暮らし始めて間もなく喘息持ちになってしまいました。

ケレドモ、15分も歩くと城下町らしい景色が楽しめます。3年程前迄はよく散歩しましたが、80歳を過ぎてからは、歩けなくなりしました。私が長府に來てから何年目だったでしょうか、大倭の秋の旅行で皆さまが長府のマリンホテルで泊まられ

て私も参加させていただいたことを思い出します。今はもうマリンホテルも無くなりました。高杉晋作が兵を挙げた功山寺、毛利邸、長府庭園、美術館等見所はありながらも、増えてゆくマンションに城下町の景色は保たれるのかと思いつつ暮らしています。

サテ、老人2人の暮らしますが、93歳の夫は毎日のようにキャリーを引いて買物に行きます。健康オタクなのでアレはここで買う、コレはここで買うと決めているのです。頭が下がる程の根性の持ち主ですが、最近ほちょっと無理かなと思うことも増えてきました。

特に庭木の剪定や後始末、草刈り、壊れた物の修繕などは、いつかやるよ状態です。人に頼むという事は嫌なのです。まあ、今のところは老人2人何とか自分たちだけで、日々を凌いでいます。何時迄続けられるでしょうか？

夕食後は2人共テレビを見て過ごしますが、彼は疲れて居眠りしていることが多いですね。私はニュースを見て、パレスチナの人々のことが気になって、神は存在するのだろうかと考えてしまいます。今はそのことで一番頭を悩ませています。

取り留めない話ばかりでしたが、最後に皆様の安らかで健やかな日々をお祈りいたします。

佐渡へ出張中

新潟県佐渡郡(現・佐渡市) 平田 弘之

六八年〜七十年の学生運動の終息の後、閉塞した状況から自己を解放しようと、各地の共同体巡りを始めた。今にして思えば随分勝手だが、何処か気に入った共同体(コミュニティ)があれば、そこで農を主体した暮らしをと思っていたのである。いくつか候補地をみつけ、弥栄之郷共同体、

「神通力如是」の真意をさぐる

第三十三回

大倭教の源流にさかのぼって

令和5年1月号の本連載第23回でも指摘しましたが、「神通力如是」の中で「天皇」とか「皇居」とかという言葉は、通常とは違った意味で使われています。

ほとんどの場合、ここでいう「天皇」とは、時の権力者が偽造した「現人神（あらひとがみ）」とか覇権を求める権力志向の存在のことではなく、古代から連続と続く「神ながら」による指導者のことです。また「皇居」とは、東京の中心にある皇居のことではなく、古代からの「かみまつりの場」であった鶏杜のことを主に指していることを忘れないで読んでください。

原文

（昭和16年11月26日 朝8時の続き）

「吾レハ、天照太神。

日聖ヨ、ヨク承ハレ、汝大事ノ役目アル躰、御身イトイ候ヘ。吾レ陰ヨリ守リ申サム。朝早く起キ出テ眞ノ妙法吾レニ供養セシメ玉ヘ。其レガ汝ノ行ナルゾ。ユメユメオ忘レナカレ。天津皇祖トク出テ汝ノ來ルノヲ待ツゾカシ。雲ワレノ出

ルヲ邪魔致スニヨリ、一日モ早くコノ雲祓ヒ世ニ出テ天照ノ恵ノコノ光、世ノ人々ニ照サントスレド雲邪魔トナツテ邪魔イタス。コノ邪魔祓ハン眞ノ題目」

大倭鶏杜遙拜せる時。

倭姫、挨拶、神楽、題目。

「ア——君ガ為吾ガ命スツル覚悟ハカネテヨリ、古ヘヨリノ習ヒ事、皇孫ノ為命スツルハコレ民草ノ道ゾカシ。君ノ寿ハ鶴亀ノ幾千代マデモ寿ギテ竹ノ園生ノ彌栄エ、我が日本ハ栄エ行クスメラギノ大稜威、千波萬波ヲ乗越エテ外國ニシロシメン。コレハ我が稜威ハ絃一宇ヲ照スナリ」 倭姫挨拶、退下。

「吾レ饒速日。

日聖ヨ、ヨク承ハレ、去年ノ秋吾レ世ニ出サンタメ汝ノ骨折、吾レ厚ク御礼申スゾヨ。汝此度天津皇孫ヨリ世界立直シノ重キ役ヲ受ケラル、ニヨリ産土大神ヨリ汝ヲ守リ候ヘト命ゼラレタリ。吾レ心ヨリ愛ケタリ。汝ノ御恩カヘシニ子トシテ生レ出デ、ナンジノ悪魔災難吾ニ受ケム。産土大神、一日モ永ラヘテ汝ヲ守リ申サ

ム、才誓ヒ申ス。日聖殿。（日聖答フ）
汝ノ其心、汝ノ其心ノモツ忠臣ハ日本ニ唯一人、君ノ為スメリマノ為命ノ限り盡シ候ヘ吾レカゲヨリ守護致サン。明日ノ日ヨリ木嶋ニ向ヒ御題目ノ供養御願ヒ申シ奉ル。

産土大神、才邪魔申シ、饒速日カタジケナク御禮申スゾヨ。サラバー」

全日 午前十時、屋内、於鳥見庄山。

「吾レハ奇稻田姫。

熊谷ヨク参リシゾ。眞ノ正法妙法會得出来シカ。今日ノ日ヨリ生レ変リテ汝ノ罪障消滅ニ勵ミ候ヘ。亦タ敦盛、前世ノ約束ニテ再ビ縁ヲ結ビシ敦盛、汝古ヘ菩提ヲ弔ヒシソノ縁ニヨリ再ビ側ヘ参リシゾ。汝古ヘニ菩提ヲ弔ヒシ心モテ敦盛ヲ頼ムゾヨ、守リ候ヘ。古ヘノ武士ト云フモノハ罪障ノ深イモノ色ノオコナヒヲ慎シミ眞ノ妙法トナヘアレヨ。汝ハ古ハハ我が母ニシテ今ノ母ハ其時ノ父ナリ。今コノ末法ニ於テ吾レ妙法トトモニ世ニ出ン。吾レ世ニ出ズルソノ時ハ父母トモニ世ニ出デ候ハム。今マデノ

行ハソノタメゾ。國立テカヘノソノ時
 ニ出デ吾レヲ助ケ候ヘ。吾レモ世ニ出
 ムソノ時マデ種々雑多ノ行ナサム。世ニ
 出ル時最早ヤ目ノ前ニ迫リシゾ、案ジル
 事ナカレ。

日蓮、吾レ汝ヲコノ大倭鷄杜ニ呼
 ビシバ世界立直シノ重キ役目、汝ヲ不憫
 ト思ハバコソ、汝前ノ世ニ於テ眞ノ妙法
 トカザリシ事、其事ガイツノマデモ胸
 ニ蟠リ、其故コノ末法ノ世ニ於テ眞ノ正
 法妙法ヲソナタノロカラ出シ、世界、
 クマナク草木ニ至ルマデ眞ノ妙法會得セ
 シメラレヨ。ア、有難キ事哉、コノ末法
 ニ世ニ出デ世界立直シノ此ノ役目ニタズ
 サハリ眞ノ妙法トナヘルモノハ八紘一字
 ニカズ限りナク人アレド其中ノ爪ノ上ノ
 砂、果報者ナルゾヨ。日蓮、吾レハ前
 ノ世ニ於テ妙法弘メン其時ニ惡魔トナリ
 テ聞キ參ラセシガ其時會得サレ姿ヲ現ハ
 シ、蛇體トナリテ七面山ヘ登リケリ。

吾ハ七面大天女。
 今ノ世ニ於テモ汝ノソバニ侍リ、汝
 ヲ吾ガ行カニテ守リマサム。日蓮、案
 ズル事ナカレ、如何ニ迫害来ウトモ指一
 本触レサセジ。ワカリ玉フタカ、第二ノ
 日蓮、日聖殿。心ノ行クマデ獅子吼セヨ」
 「外敵襲来」真ノ題目。
 倭姫。

「日親上人ハ輪孺香ノ母サダ。申サズ
 トモ身ニワカル筈、汝ガ幼キ時ノ傷、
 其レハ此ノ事ヲ物語ルゾ。其時ノ靈モチ
 テ眞ノ正法弘ムル助ケノ役、何卒御覚悟
 アレ」

日聖云ふ。

一、成川栄三郎の意なり。熊谷直實は
 その前身なり。

二、日聖の長男、家麻呂なり。母は成
 川栄三郎の長女輪孺香にして今世
 は熊谷の孫なり。

三、成川栄三郎なり。

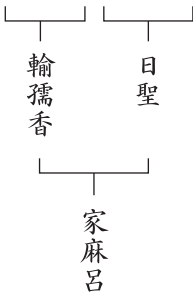
四、奇稻田姫命の母、手摩乳の意なり。

矢追隆藏

全 日妙

成川栄三郎

全 サダ
 (義母)



五、成川サダは奇稻田姫命の父脚摩乳
 の意なり。

六、矢追輪孺香の意なり。

七、奇稻田姫命、日蓮を日聖として鷄
 杜に再誕させし事の意。

八、七に同じ

九、奇稻田姫命、日聖が前世日蓮たり
 し時の世の意、

十、今の世に於ても奇稻田姫命七面大
 天女として日聖のそばに侍るの
 意。

十一、日聖の意なり。

十二、成川サダ、二、三歳の頃自家にて
 爐の鍋を冠り頭部大火傷をなした
 り。

註釈文

① 汝大事ノ役目アル鉢

「神通力如是」の第一回で法主の次のような
 お役目が語られている。

《本年神奈月は天津神国津神八百萬神等が大
 倭日高見国鷄杜に集ひ玉ひ寝たる沼矛を起こし
 て妙法によって世界を立て直し神代の再現を議
 り玉ふ。既に日妙の神通力により鷄杜に秘めあ
 る妙法を顯出し其腹を宿として昭和維新の大国
 主天業翼賛の一大事因縁を有する日聖生まれ出
 でたり》
 つまり「妙法によって世界を立て直し、神代
 の再現をはかる」役目を負ったということであ
 る。

② 其レガ汝ノ行ナルゾ

それがあなたの修行である。

③ 汝ノ来ルノヲ待ツツカシ

法主が世に出てくるのを待つということ。法
 主が世に出たのは昭和20年8月15日の終戦の日
 に「宗教で立つ」という神命がおりた時のこと
 である。

④ 雲ワレノ出ルヲ邪魔致スニヨリ

「神通力如是」第八回の註釈③にある「悪魔」
 が邪魔しているということ。その註釈では悪魔

とは「歴史上鎮魂されていない霊界の邪悪な想念が現じる勢力のことであり、霊界の段位が修羅道以下の霊人たち」とされている。

⑤皇孫ノ為

皇孫（スメラミマ）とは饒速日命の子孫のことを指している。

⑥スメラギ

天皇、スメラミコト。地方豪族の首長。

⑦外国ニシロシメン

前回（第32回）で登場する三方より攻めてくる国々も含む他国にも知らしめましようということ。

⑧饒速日

饒速日命。記紀神話の神。天孫降臨に先だち天より降り、長髓彦（ながすねびこ）の妹三炊屋姫（みかしきやひめ）を妃としたが、神武天皇東征の時長髓彦を誅して天皇に帰順したという。物部氏の始祖と伝える。

（岩波書店『広辞苑』による）

しかし、大倭では饒速日命はそれとは異なる位置付けがされている。

『大倭神宮伝承の紀』から引用しよう。

《・奇玉饒速日命の降誕の聖地

亦の名。大國主命、天照國照彦火明命、大物主命、及び、天火明命とも言い、右の建速須佐緒命を父とし奇稲田日女命を母として、この大倭祖神の靈地にて降誕された。

後世、この命の徳を讃えて多くの別名ができたのである。

この三柱の命を我が民族の元初祖霊と崇め奉り、「大倭大國魂大神」と称えまつりて、後世

⑨産土大神

産土神とは生まれた土地の守り神のことであるが、ここでの産土大神とは饒速日命に命ずるような存在であることからして、鳥見谷を守護する大倭鷄杜や登彌神社や矢田坐久志玉比古神社を含むこの地方全体の守り神であると考えられる。

⑩木嶋二向ヒ

奈良市と大和郡山市が接する富雄川東峯のなだらかな丘陵の先端に、古くから「木嶋（このしま）明神」と呼ばれてきた登彌神社が鎮座している（現在は奈良市石木町）。鉄の大釜に小豆粥を炊き、長さ約20センチの細い竹筒に入った粥の状況のみて作柄を占う筒粥祭で有名である。境内とそれに続く丘陵からは土馬の破片が出土し、和銅開珎の銀銭・銅銭等も発見されている。（白水社・谷川健一編『日本の神々。神社と聖地4』による）

「木嶋二向ヒ」というのは大倭神宮から西南に約3キロにある、この登彌神社に向かってということであろう。（『ながそねの息吹』258〜261頁参照）

この神社の入口の碑に神社名を揮毫したのは海軍大将や首相も務めたこともある鈴木貫太郎である。法主は東京時代に鈴木氏と交流があつた。



たので揮毫を依頼し矢追隆家の名でこの碑を寄贈している。

⑪熊谷

熊谷直実（くまがいなおぎね） 1141〜1208 鎌倉初期の武将。武蔵国熊谷の人。はじめ平知盛に仕えたが、のち源頼朝に仕え、一ノ谷の合戦で平敦盛を討った話は有名。建久3年（1192）所領争いに敗れ、自ら髪をきって法然の門に入り蓮生（れんじょう）と名のつた。（岩波書店『広辞苑』による）

⑫敦盛

平敦盛（たいらのあつもり） 1169〜1184 平安末期の武将。一ノ谷の戦いで熊谷直実に討たれた。従五位下だったが官職がなかったため、無官の大夫とも。（岩波書店『広辞苑』による）

⑬爪ノ上ノ砂

佐渡国塚原の地で日蓮上人が著された『開目抄』の中に《私は『涅槃経』に予言している。『末法には正法を持つ者は爪の上の土の如く少なく正法をそしる者は十万の土の如く多い』との一文がある。》

⑭七面大天女

七面天女の示現に関しては諸説があり、その一説では、建治3年（1277年）日蓮上人が身延七面山で法座の石に座つての説法中、どこからか怪しげな美女があらわれ熱心に上人の説法を聞いていたが、それを怪しんだ法話を聴聞していた弟子や信徒のために上人がその正体を現わさせると、たちまち雲が乱れ雷鳴がどろろき、美女は大蛇となり飛び去った。その際、上人のために護法の神となることを言い残したという。それが七面天女であるという説である。

現代語訳

(昭和16年11月26日 朝8時の続き)

天照太神「私は天照太神(太陽神)

日聖よ、よくお聞きなさい。あなたは大事な役目のある身体です。お身体を大切にしてください。私は陰からあなたをお守りいたします。朝早く起き出して真の妙法を私に供養してください。それがあなたの修行なのです。決して忘れることのないように。

天津皇祖(奇稲田姫命)は急ぎ世の中に出て、あなたの来るのを待っています。雲は私が世の中に出るのを邪魔しているので、一日でも早くこの雲を祓い世に出て、大空を照らす恵みのこの光で世の中の人々を照らすとしますが、雲は悪魔となつて邪魔をします。この悪魔を祓う真の題目

大倭鷄杜を選擇している時

倭姫、挨拶、神楽、題目。

倭姫「あー天皇のために私の命を投げ出す覚悟は以前から持っています。昔から学んできたことです。天皇のために命を捨てるのは、これは人民の道なのです。天皇の御壽命を鶴龜のように長く永久にお祝いを申し、大倭鷄杜は弥栄え、私共の日本が栄え行く天皇のご威光は、数多くの波を乗り越えて外国にまで知らしめましょう。このことは私共の天皇の御威光が全世界を照らすということですよ」倭姫挨拶、退く。

饒速日命「私は饒速日。

日聖よ、よく聞きなさい。去年の秋、私を世に出すためのあなたの骨折りに対し、私は厚く御礼を申し上げる。あなたがこの度天津皇祖(奇稲田姫命)より世界立て直しの重い役目を受けられることで、産土大神(大倭鷄杜等の神々)よりあな

たを守りなさいと命じられました。

私はこれを中心よりお受け致しました。あなたへの御恩返しとして(あなたの)子供として生まれ出て、あなたの悪魔からの災難を私を受けます。産土大神に、一日でも長く生きて、あなたをお守りすることを誓い致します。日聖殿。(日聖、饒速日命に答える)

あなたのその心、あなたのその心に持つておられる忠臣は日本に唯あなた一人です。君のため、天皇のため命の限り尽くしてください。私は陰からお守り致します。明日から木嶋登彌神社(祭神饒速日命)に向かって御題目の供養をお願いします。産土大神、おじゃまをいたしました。饒速日厚くお礼申し上げます。サラバー」

同日 午前10時、屋内、鳥見庄山において。

奇稲田姫命「私は 奇稲田姫、熊谷よく来られました。真の正法妙法を会得出来ましたか。今日という日から生まれ変わってあなたの罪障消滅に励みなさい。また敦盛、前世の約束によって再び縁を結んだ敦盛、あなたが昔(敦盛の)菩提を弔ったその縁によって再び側へ来ていますよ。あなたが昔菩提を弔ったその心を持つて敦盛のことを頼みましたよ。守ってあげてください。昔の武士というものは、罪障の深いものです。色欲の行いを慎んで真の妙法を唱えてください。あなたは昔私の母親であり現在の母親はその時の父親でした。今この末法の世において私は妙法と共に世の中に出ます。私が世の中に出てゆくその時にはご両親と共に世の中に出てください。今までの行はそのためなのです。国を立て替えるその時に出て私を助けてください。私も世に出るその時まで色々と雑多の行をおこないます。世に出る時はもう目の前に迫っています。心配する事はあ

りません。

日蓮よ(法主に対して)、私があなたをこの大倭鷄杜に再誕させたのは世界立て直しの重き役目(を与えるため)、あなたを不憚と思つたからなのです。あなたは前の世において真の妙法を説かなかつたこと、そのことがいついつまでも胸に蟻(あがま)つています。そのためにこの末法の世において真の正法妙法をあなた自身の口から発し、世界くまなく、草木に至るまで真の妙法を会得させてください。ああ有難いことです。この末法の世に生れ出て世界立て直しのこの役目にたずさわりの妙法を唱える者は世界中に数限りなく人がいても、その中の爪の上の砂の様にわずかです。果報者なのです。日蓮よ、私は前の世において(あなたが)妙法を弘めているその時に悪魔となつて(あなたの法話を)聴きに行きましたが、その時に悟られて(正体を見破られ本性を)現し、蛇体となつて七面山へと登っていききました。

私は七面天女です。

今の世でもあなたの側において、あなたを私の行力で守りましょう。日蓮よ、心配することはありません。どの様に迫害が来ようとも(あなたに)指一本も触れさせません。おわかりいただけましたか。第二の日蓮である日聖殿、心ゆくまで獅子吼なさい」

「外敵襲来」真の題目。

倭姫「倭姫 日親上人は輪孺香の母サダです。話さなくてもご自身はわかるはずですよ。あなたが幼い時の傷、それはこの事(日親上人である事)を物語っているのです。その時の(日親上人の)霊(としての自覚)を持つて真の正法を弘めることを助ける役目なのです。どうか御覚悟のほどを」(※「日聖云ふ」に関しては原文を参照してください)

あじさい日記

10月10・17日 2日にわたり、30年たった大本宮拝殿のエレベーターの全面改修が行われました。改修工事を躊躇していた「アトノコトラ カンガエヨ」と法主さんのお言葉がありました。(杉本)

10月13日 午後2時から大倭会主催祝会が開かれ、久しぶりに加納輝船さんが参加されました。10月15日 午後2時から大倭神宮の月次祭が行われました。10月16日 今年も奥津斎庭・金剛大龍王さんの寝床用に使われる新しい藁が届けられました。

10月20日 交流の家において恒例の「交流の家」コンサートを開催。秋晴れの中、キャンパー



や一般の参加者がライブやトークを熱心に聴いていました。

10月20・21日 第351回大倭会文化行事で24名の参加者が長野県木曾町の義仲館や岐阜県白川村の白川郷合掌造り集落や福井県永平寺町の永平寺などを巡りました。(報告は次号で)

10月23日 午後2時から大倭大本宮の月次祭が行われました。この日は昭和40年10月23日の法話をお聞きしました。

10月24日 午前11時ごろ、鹿屋市の文芸同人誌「火山地帯」編集発行人・立石富生さんが来邑されました。

10月27日 衆議院議員総選挙が行われました。

10月28日 午後5時から本紙『おおやまと』の編集会議が教務本庁で開かれました。

10月30日 大倭紫陽花邑誕生日。昭和22年10月30日、法主一家6人が登美庄山矢追家を出が、宗教活動の中心地となる須加谷に遷られた。先発隊として先に入られていた青山日元一家の3人と合流された。

11月3日 午前8時から大倭墓地と土師部の杜の掃除が行われました。

午後5時から本紙『おおやまと』の編集会議が教務本庁で開かれました。

11月6日 午後2時から大倭神宮の月次祭が行われました。午後6時半から邑倭の会が開

かれました。大倭安宿苑では

10月11日 午前10時30分からコロナ感染症により4年中断していた理念研修を久しぶりに開催しました。これまで理念研修を受講されていない職員20名の参加でした。理事長の講話を聞き職員は身が引きまいったのではないかと思います。(菅原園)

10月24日 午後から音楽療法で新入所の方も参加し、珍しい楽器などに触れたりして楽しく過ごしました。

11月2日 午後からカラオケサークルを行いました。(須加宮寮)

10月22日 音楽療法で、自宅で咲いた季節の花を先生が持ってきてくださり、季節の歌などを歌いました。

10月31日 単独避難訓練を行いました。

ました。非常放送を聞き、階段を利用して玄関先(ピロティ)に避難しました。(長曾根寮)

10月6日・18日(特養)フロアで紅葉の飾りつけを行い、音楽をかけて季節を感じてもらいました。

10月14日・18日(デイ)運動会週間、赤白に分かれ、さまざまな競技で競い合いました。(茂毛路園)

10月31日 茂毛路園ハロウィンの日ということでおやつ時に仮装した職員が各ユニットへ行き、入居者にハロウィン仕様のお菓子を手渡しました。(八重垣園)

10月29日 午後からカラオケを歌い楽しみました。夕食前に食事をつかりと摂れるようパタカラ体操(誤嚥を防ぐ訓練の一種)を行いました。

日聖祭のご案内 令和6年12月23日(月)

大倭八十一年 二元日
法主日聖師の御誕生を記念する祭典

○午後1時半、法主様の奥津城に参拝。
午後2時より大倭大本宮拝殿において日聖祭が執り行われます。

お願い 今になっても各種感染症の勢いは予断を許しません。引き続き、皆様のご協力をどうぞよろしくお願い致します。

あんない

*金鶏祭(大倭神宮)
12月4日(水) 午後2時より大倭神宮にて。

金鶏祭とは、高千穂勢に対し鳥見側が正に勝鬪(かちどき)をあげんとした時、天に出た光を天啓と悟り矛を収め講和した、「大和(だいわ)」の精神を記念するお祭りです。

『やわらぎの黙示』の「日本精神の源流―長曾根邑のすめらみこと」等を読んだり、聖歌「くにも」とを歌う時、改めて「和の光」に思いを致しましょう。

*月次祭(大倭神宮)
12月6日(金) 午後2時より大倭神宮にて。

*大倭会主催祝会
12月8日(日) 午前9時より「掃除みそぎ」として、大倭紫陽花邑境内の大掃除です。昼食は用意されます。

これに先立ち8時より大倭墓地の大掃除が行われます。
*月次祭(大倭神宮)
12月15日(日) 午後2時より大倭神宮にて。

*日聖祭(大倭大本宮拝殿)
12月23日(月) 大倭元日。
上の「案内」をご覧ください。

*大倭神宮境内・周辺大掃除
12月29日(日) 午前9時より。
有志の皆さんはご参加下さい。昼食は用意されます。